

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....
各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

色々な意味で厳しい冬を過ごして
います。昨年ほどの豪雪ではないと
いうのがせめての救いでしょうか。
春は必ずやってきます。体調に気
をつけてお過ごしください。

* * *

「泥縄」という言葉が時々頭をよ
ぎります。泥棒が来て
から慌てて縄をなうこ
とですが、何のことを
言っているのか、もう
分かりませんね。国のコ
ロナ対応です。



海外から流入しないように空港で
は厳しい水際作戦な
のに、アメリカの軍
関係者は検査なし、
行動制限なしでは、
ザルのような状態。
高齢者や成人の3

第6波が「想定通り」始まりまし
た。かつてないほどの勢いです。で
も、備えは十分ではありません。「先
手先手」とは言葉。今回も「後手後
手」との批判は免れないでしょう。

第5波が収束した後の数か月を無
駄にしてしまいました。検査体制、
医療体制、保健所機能など、しっか

り強化しておけば、その後の混乱は
少なくなっただことでしょうか。

今は検査キットが足らず、若い人
はコロナにかかっても受診するなど
言われ、濃厚接触者には自分たちで
リストを作って連絡しろと指示。

回目ワクチンはやっと始まるうとし
ている段階。遅れは明白です。「空
白の3か月」がつくづくもったいな
かったです。

流行は繰り返しますが、国の対応
もバージョンアップして欲しいもの
です。懲りない、学ばない政府は困っ
たものです。

感染症情報

新型コロナウイルス感染症の第6波が、かつてないスピードと規模
で日本中を席卷しています。12月に始まった流行ですが、1月は患者
数の増加が著しく、瞬く間に全国に拡大。各地で「まん延防止等重
点措置」が発令。新潟県も早くからその適応を受けています。

これは新しいオミクロン株によるもので、重症度は低いようですが、
伝染の速度がとても速く、潜伏期が短いという特徴があります。また
これまでかかりにくいと言われていた小児や若年層にも感染が広がっ
ています。十分に警戒してください。

個人の感染予防策はこれまでと変わりありません。あまり出歩かず、
マスク、他の人との距離をとるなどを引き続きお願いします。

感染性胃腸炎は少し流行があります。保育園での集団発生が主です
が、子どもを介して家庭内での発生もおきています。嘔吐物や下痢便
の中に大量のウイルスがいるので、それらの始末は丁寧に行い、手洗
いも十分に行ってください。子どもがかかると脱水や低血糖になりや
すく、点滴治療が必要になります。ぐったりしている場合はすぐに受
診してください。

このほかでは溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎などが少しづ
つ発生があります。いずれも咽頭痛と発熱が特徴で、登園停止の扱い
です。溶連菌感染症には抗菌薬による治療をおこないます。

ほかに感染症の大きな流行はありません。

水曜午後の診療体制変更

- 今月より水曜午後の診療時間を午後4時30分～6時に変更します（現在は3時～6時）。受診希望の方は**直接来院**してください。（予約制ではありません）
- 受付時間は午後4時30分～5時45分です。
- 新型コロナ予防接種を集中的に行うための対応です（成人3回目、5～11歳小児の1、2回目接種が始まります）。
- 応急的な対処が主になりますので、定期受診の方は別の日をお願いします。

今月の予定

院長・副院長出務

上越市夜間診療所勤務 16日（副院長）
上越有線放送「健康ライフ」15日
FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報（毎週）

FM上越：木曜午後1:35頃～
上越有線放送：月曜午後6時～（番組内）
医院ホームページ内

新型コロナ

第6波に立ち向かう

新型コロナウイルスの第6波は昨年未から徐々に始まり、今年に入って一挙に拡大しました。現在多くの地域でまん延防止等重点措置が発令され、さらに緊急事態宣言も検討されているようです。

この第6波はオミクロン変異株によるもの。多くの遺伝子変異があるため、再度の罹患もあり、またワクチンの効果も減弱しました。

これまで以上の大きくて急激な拡大をした理由がいくつかあるようです。オミクロン株の特徴について考えてみたいと思います。

●若年層の罹患

これまでと違って子どもたちや20〜30歳代の若年層で感染者が増大しました。若い人ほど社会活動が活発なので、感染しあう機会が多いことでしょう。

幼児や小中学生も、今回は多数の陽性者が出ています。多くは軽い症状のようですが、マスクをしにくい、

他の子との距離が近いなど、クラスター化しやすい状態です。

子どもがかかると、次は家庭内で感染が広がります。高齢者や基礎疾患のある成人にとっては、とてもリスクが大きいといえるでしょう。

子どもが陽性になったり、濃厚接触者になると、家族は皆自宅待機が求められます。これもまたご家族にとっても大変な事態ですし、社会活動が停滞する原因になります。

また、若年層であっても重症になる方が一定の割合で出てきます。その割合がこれまでより低いけれど、ゼロではありません。発生数が多くなれば、重症者数も当然多くなります。侮るなかれ！です。

●感染スピートの速さ

オミクロン株による流行の特徴の一つが、感染拡大のスピードです。猛烈な速さで陽性者数が増大し、流行が拡大しました。

患者数が2倍になる期間（倍加日数）はデルタ株の約5日に対して、オミクロン株はわずか約2日。指数関数的に増加するので、2日で2倍

とすると4日で4倍、6日で8倍、8日で16倍、10日で32倍……。1か月後にはデルタ株では百倍強ですが、オミクロン株では何と1万6千倍ほどに。

倍加日数が短いと発生数の急激な上昇をおこします。今回の第6波が短期間に発生数が劇的に増加している事象がよく理解できます。

さらに潜伏期も約2日と短いのも特徴です。一人でも感染すると、その周囲に、ほぼ同じ時期に新しい患者がどんどん増えていきます。恐るべきオミクロン株です。

●実行再生産数は？

一人の感染者が何人に感染させているかの数字が「実行再生産数」。これが1より大きければ患者数が増加し、1より小さければ流行は収束に向かいます。

第6波は1月10日ごろが6近くあり、感染者数の急増もたらせた一因です。この数字は1月末には1.6ほどに減少してきました。まだ1以上ですが、それでも大人しくなってきた印象です。このまま早く1を切る

と、状況は好転してくるでしょう（重症者は流行のピークから遅れて増加するので、医療現場では気を許すことはできませんが）。

●ワクチンの効果

ワクチンの効果が減弱しているのもオミクロン株の特徴です。2回のワクチン接種を済ませていても感染してしまうようになりました。しかし、重症化を予防する効果は十分にあるといわれています。

さらに3回目の追加接種を受けることで、感染も防げるようになります。日本では追加接種が大幅に遅れたのは、とても残念なことです。

第6波には間に合わないようですが、その次に来る変異株の流行を防ぐためにも、ぜひ追加接種を受けるようにしてください。

来月以降は5〜11歳の子どもたちへのワクチン接種が行われます。定期的にも、オミクロン株の変異株の流行に備えるのが目的です。

国からのワクチン供給が滞っています。始まるのは4月からになります。しばらくお待ちください。